

垂直離着陸型の輸送機オスプレイの問題についてお尋ねします。ご存知の通り、事故が相次いで発生し、全国に不安が広がっています。

昨年 12 月に名護市の海岸に墜落し機体が大破した事故がありましたが、その事故機は同じマークが機体に描かれていたことから、2014 年の日米共同訓練の際に熊本に飛来した機体である可能性が高いと指摘されております。以降、国内外で事故やトラブルが続発し、事故件数は毎年右肩上がりに増加しております。今年 9 月に公表された最も重大な事故とされるクラス A の事故率は 3.27。この数値は、オスプレイが 2012 年に普天間基地に配備される際に防衛省が公表した事故率 1.93 のおよそ 1.7 倍であります。

このオスプレイを投入した米海兵隊と陸上自衛隊との共同訓練が、今月 8 日から大矢野原演習場などを使って行なわれます。陸上自衛隊第 8 師団から約 350 名、米海兵隊から約 400 名が参加し、MV 22 オスプレイ 4 機が使用される予定であります。また夜間飛行訓練もおこなわれます。

こうした共同訓練に関し、住民が不安を抱くのは当然のことであります。そもそも、訓練実施のひと月前になるまで、具体的な日時や訓練場所について、県や地元自治体に何ら説明がなかったことなど、政府・防衛省の姿勢は極めて不誠実なものであったと言わなければなりません。

また、陸上自衛隊は高游原分屯地を候補地の一つとしてオスプレイの配備を検討しているとの複数の新聞報道がありました。高游原分屯地は、阿蘇くまもと空港に隣接しております。報道が事実であれば、危険なオスプレイが、熊本の空の玄関口付近を、そして今なお多くの被災者が避難生活を送るテクノ仮設団地付近を飛び交い騒音、事故などの深刻な不安を住民に与えることとなります。報道の事実関係について防衛省は、何も決定していないと、まともな回答をしていません。

私は、県民の安全を守る知事の責任を鑑みるならば、少なくとも防衛省に対し、この間発生したオスプレイ機の事故原因の解明と対策が行われたのかという説明を求めること、そして納得いく説明がない限りは、オスプレイを使った日米共同訓練を熊本において実施することも、高遊原分屯地にオスプレイを配備することも認められないということを表明すべきであると考えますがいかがですか。蒲島知事にお尋ねします。

(オスプレイ切り返し)

安全・安心の確保や十分な情報提供を要望しているとのことですが、例えば夜間飛行訓練後、オスプレイは岩国基地に帰るわけであります。その飛行ルートは米軍の運用事項でありどこをどう飛ぶかは防衛省も知らないとのことであります。住宅地上空を飛ばないように要望しているといっても、何ら確約はありません。知事は、訓練終了後の飛行ルートも含めて明らかにせよと、毅然として求めるべきであります。

先週金曜日、県内野党四党共同で、九州防衛局に対し、日米共同軍事演習中止の申し入れをおこないましたが、その席上、九州防衛局から、高游原分屯地で体験搭乗会をおこなう計画を聞きました。2014 年、蒲島知事も体験搭乗されましたが、知事はその時、県議会で、オスプレイの安全性については、私自身が体験するということで皆さんもご理解いただけるのかと思います、と述べておられます。知事の体験搭乗でオスプレイは安全だとのアピール効果は大きかったと思われませんが、しかし近年のオスプレイの相次ぐ事故を考えると、その対応は重大な誤りではなかったかと私は思います。今回もまた体験搭乗会の案内が県に来ていたとのこと

であり、高遊原分屯地へのオスプレイ配備への布石ではないかとの印象も受けます。暫定配備を検討している事実はないとの回答を得たと知事は言われましたが、日本共産党が九州防衛局との交渉の中で、それでは新聞報道はフェイクニュースなのかと問いただすと、お答えになりませんでした。配備計画があるのかないのか、正確な情報提供を厳しく知事は求めるべきだということを申し上げたいと思います。